



Psyche's
creepy &
Creamies!!
EP 1.

WARNING

私の作品は過激な描写を含みます。

私の作品・発信は全て現実世界/個人/団体とは一切関係なく、唱道等、思想提唱の意図も一切ございません。

現実/非現実の境界、現実世界での健全且つ倫理的な精神を保ちながら「非現実世界」を楽しめる成人済の方のみ閲覧して下さい。

Psyches
Creepy &
Creamies!!

僕が覚えているのは
ここから。



容易く突き飛ばされた
「この胸のシマエの上
壊れそうな身体と」

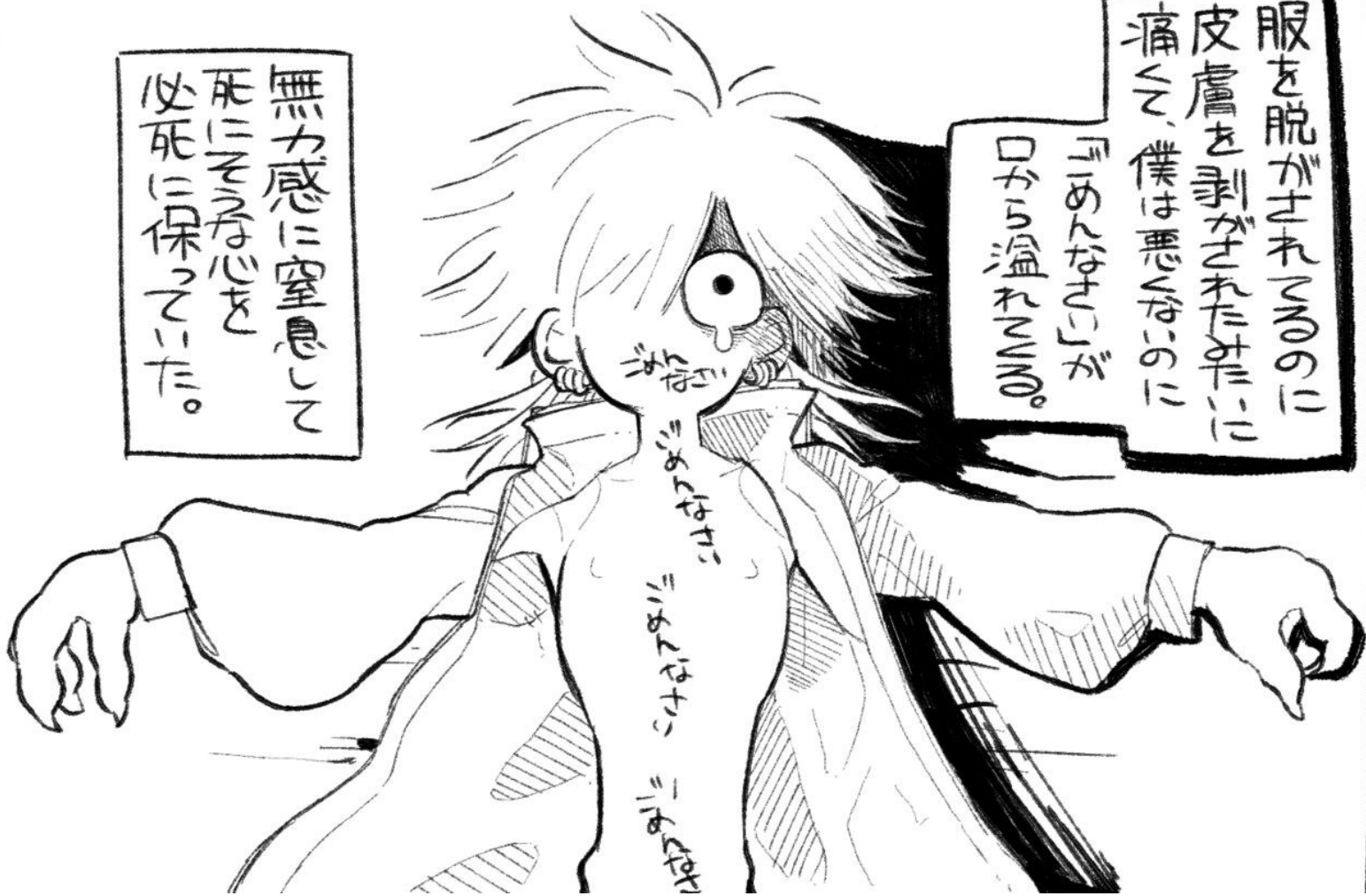
痛
ニ
ナ
シ
タ
シ
タ
シ
タ



服を脱がされたものに
皮膚を剥がされたために
痛くて、僕は悪くなっている

「いぬいぬいぬ」が
ロから溢れぬように

無力感に窒息して
死にそうなのに
必死に保っていた。



アシュタ。
貴様は弱すぎる。

私に神の座を寄越せ。

天井も見えない
大きな身体の男。

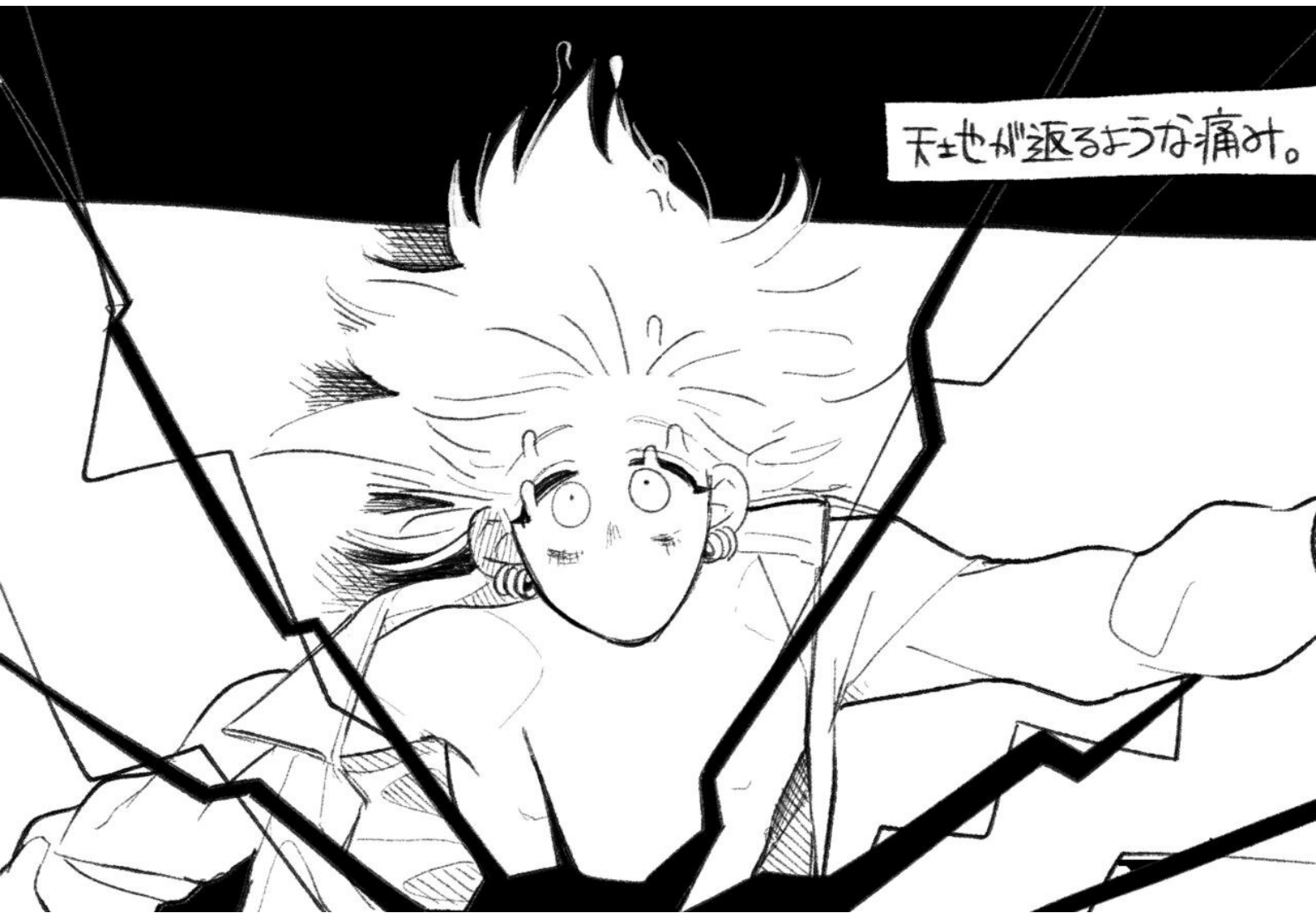




滑稽に開かれる脚。



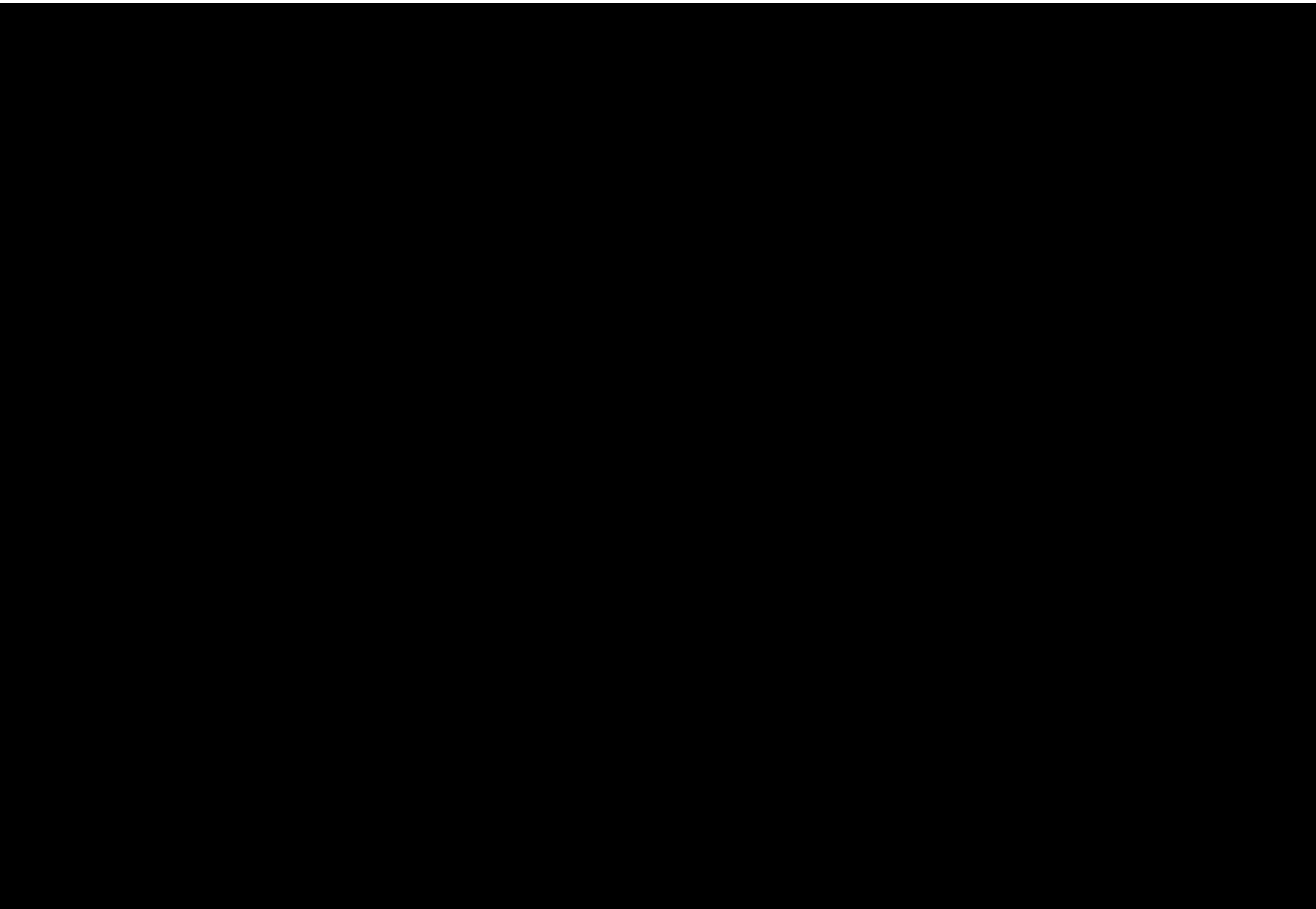
天地が返るような痛み。

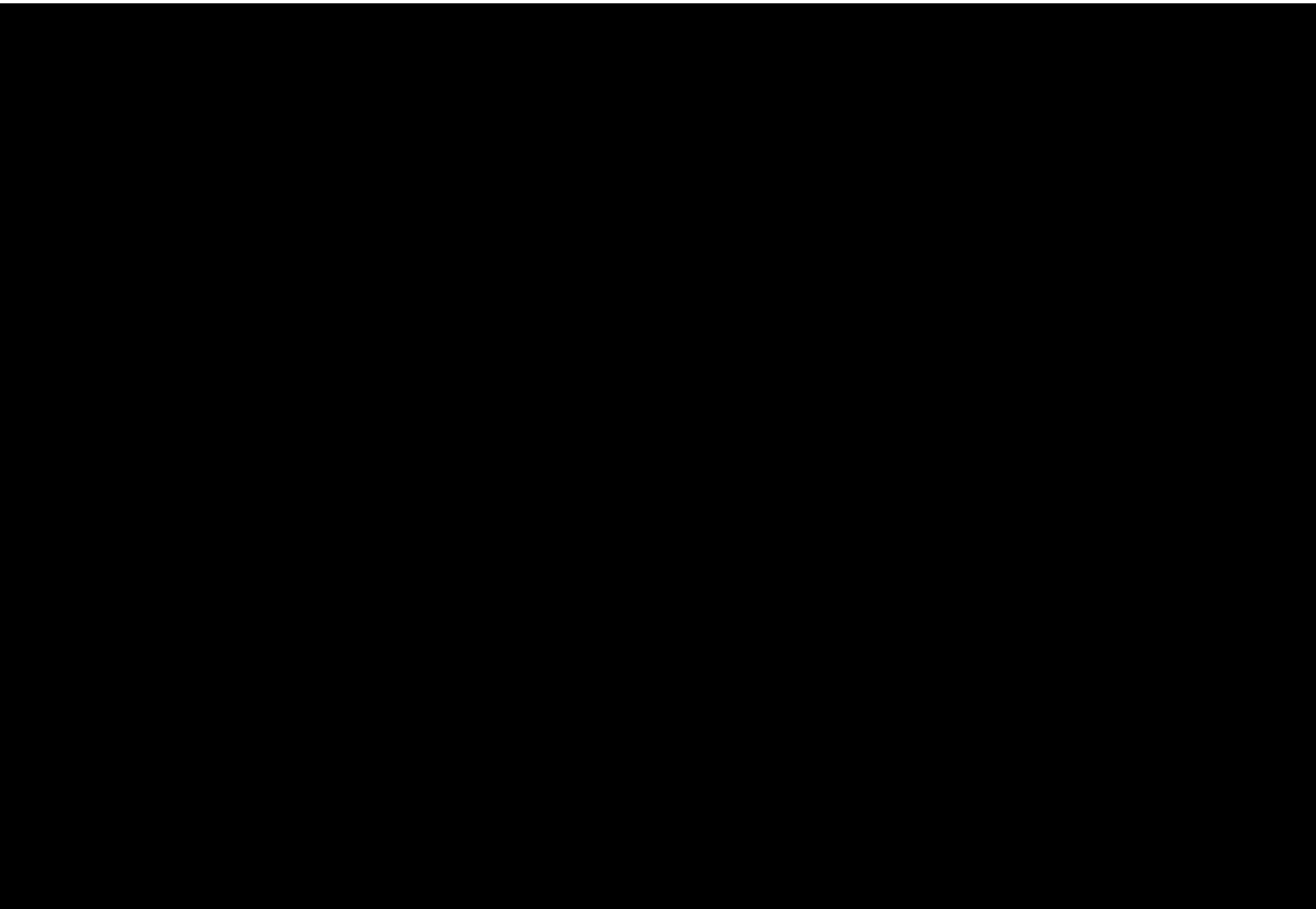


吊り上がる



□角





はあ……

はあ……

吐息

苦いけれど
甘みのあるタバコの香り

何故か苦くなる
血の臭い

リレを手繰り寄せ

目を覚ました。









君...

おくり...

ら...

ん...

か か



大丈夫？

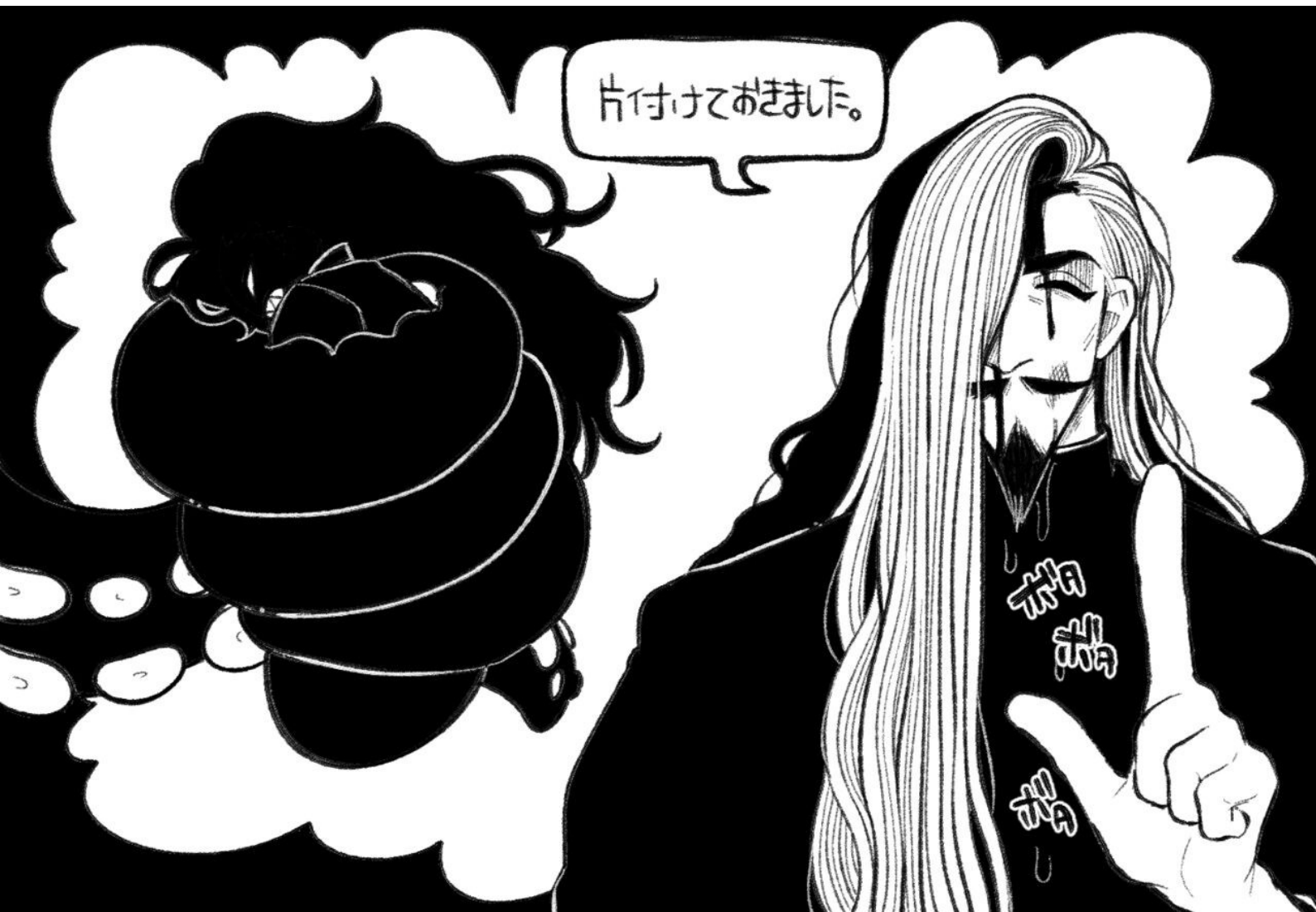
たが

たが









片付けておきました。

私がもっと早く
此処へ来ていれば...
申し訳ございません。



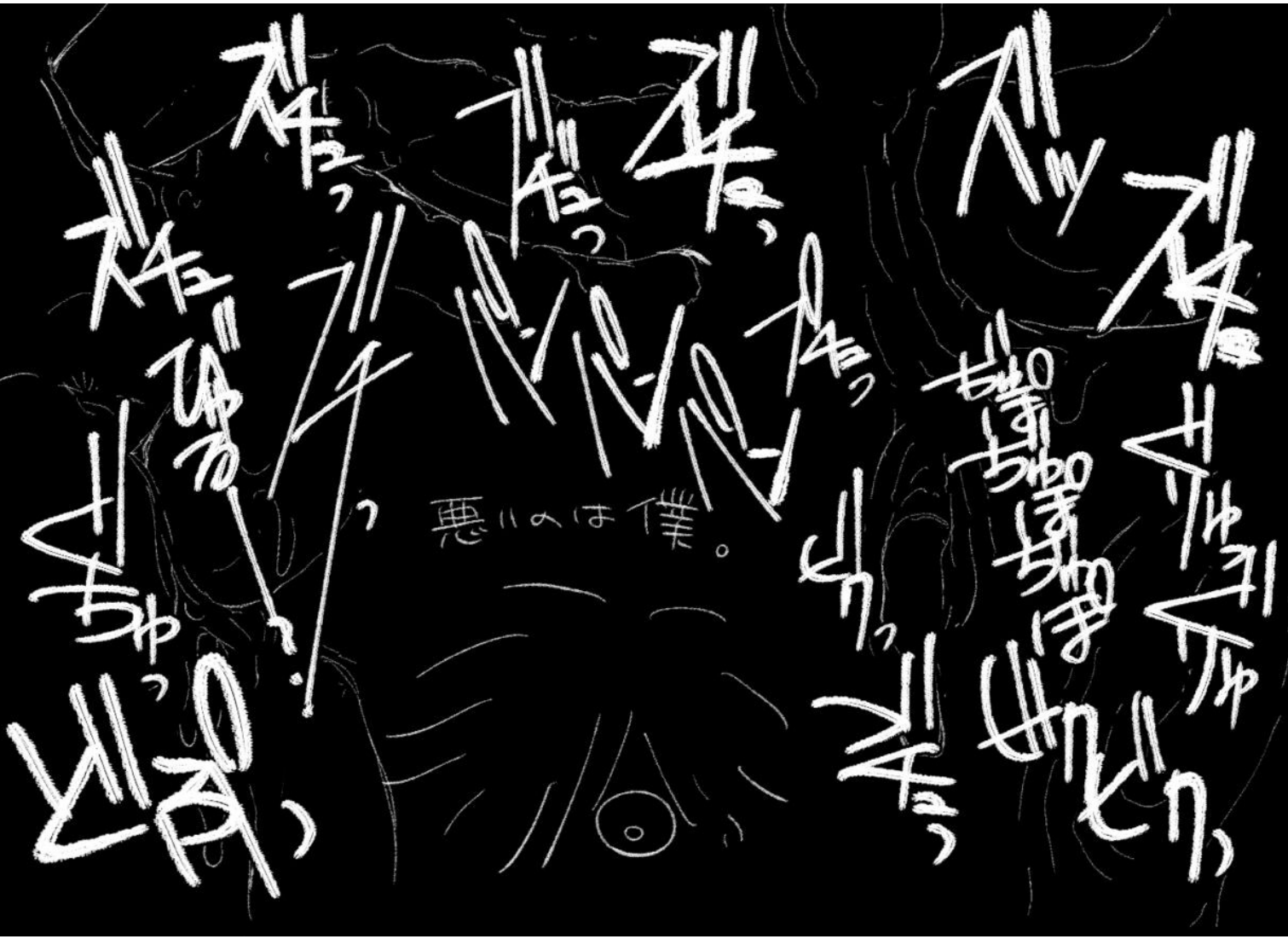
どうして君が
悲しそうなんだろ。







僕ほんた。



悪いのは僕。

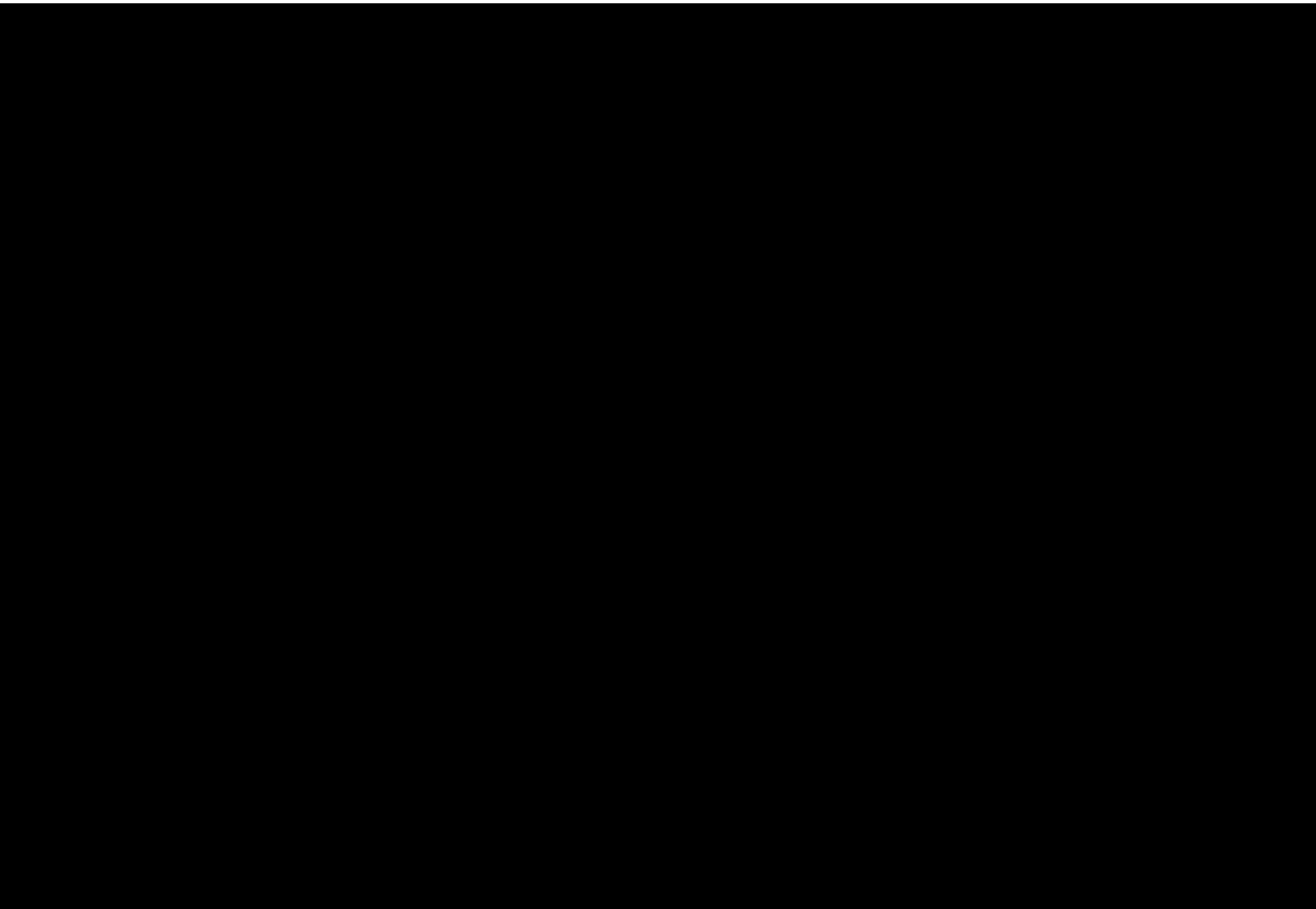
718-2167

10/15/20

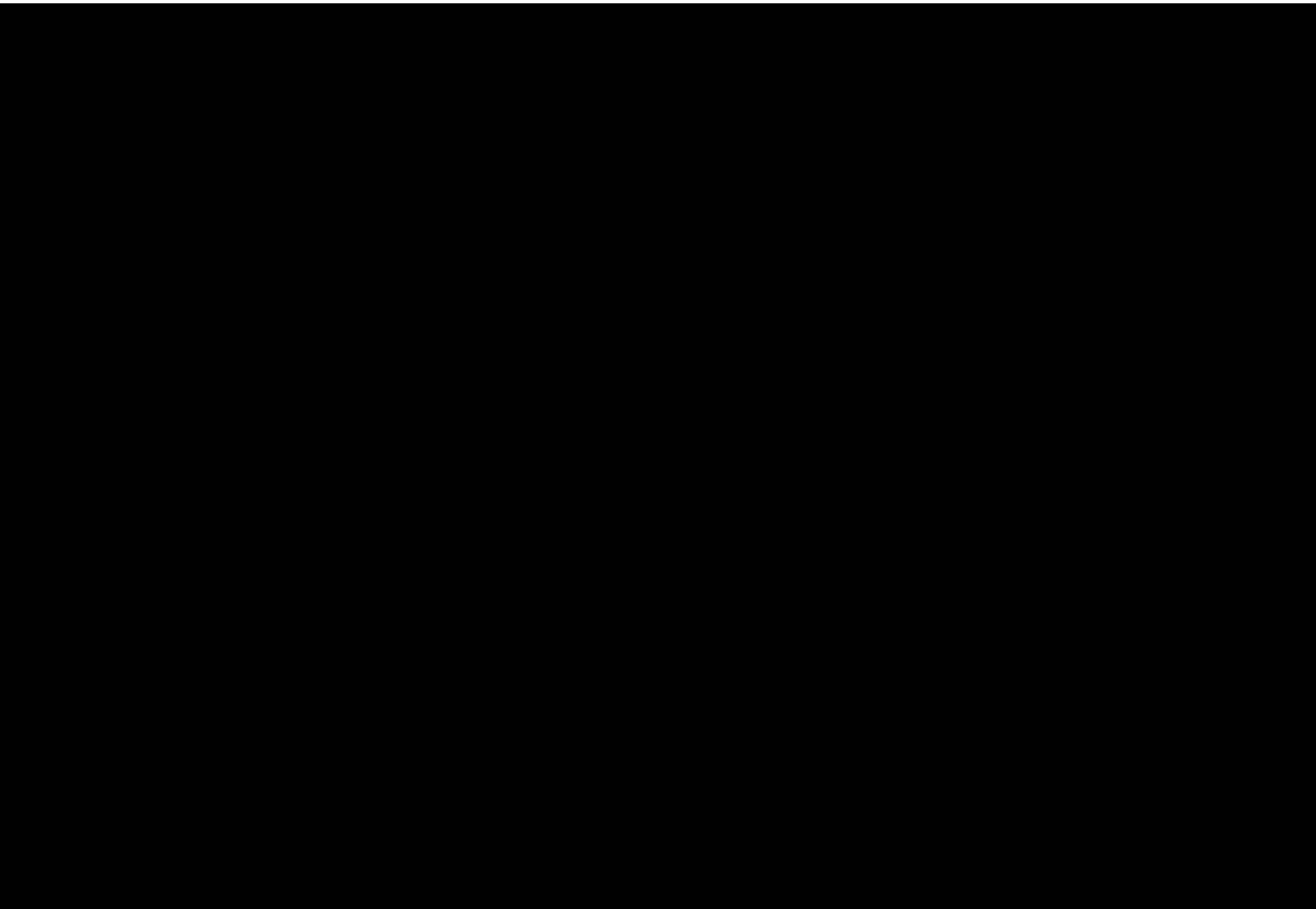


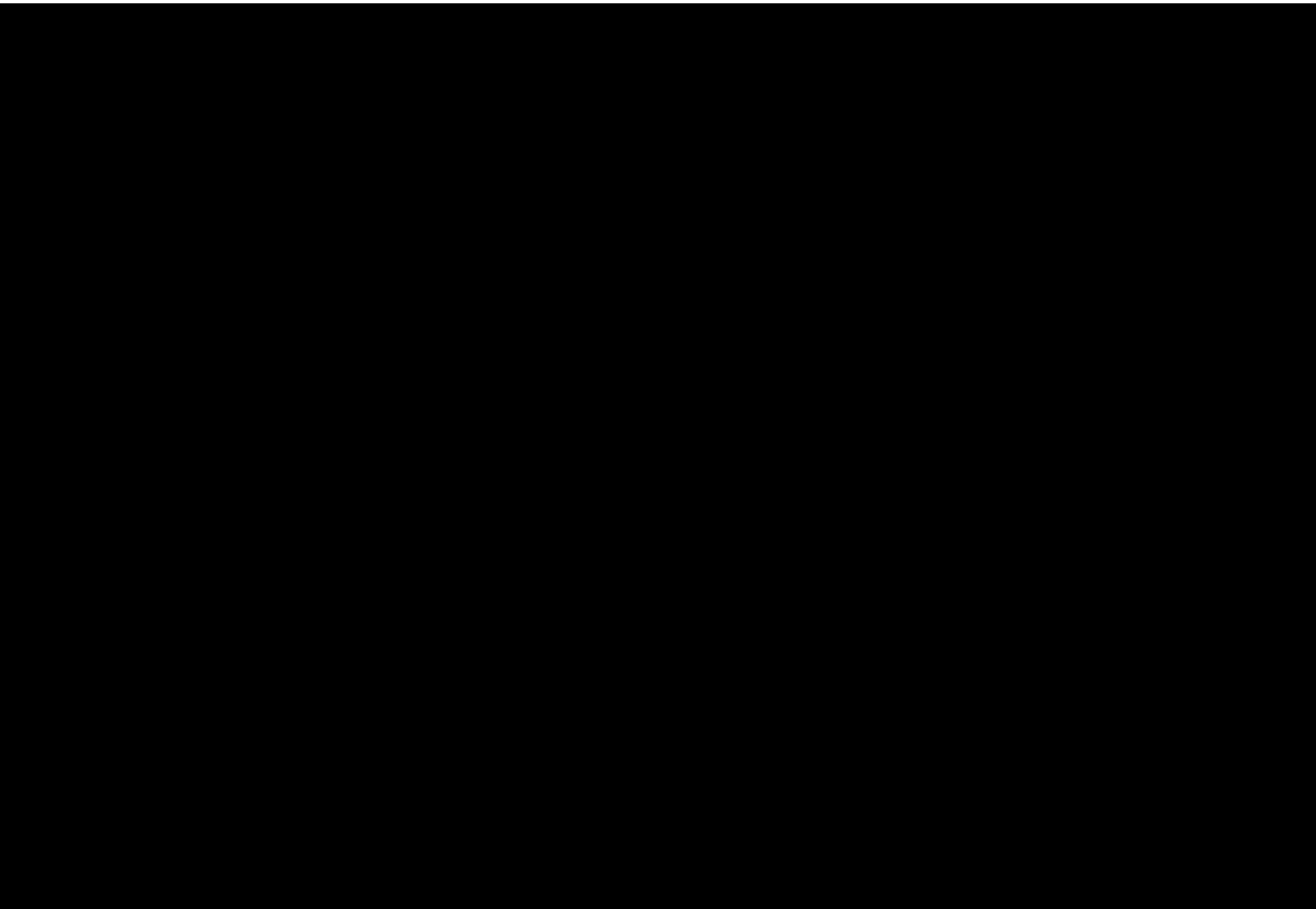






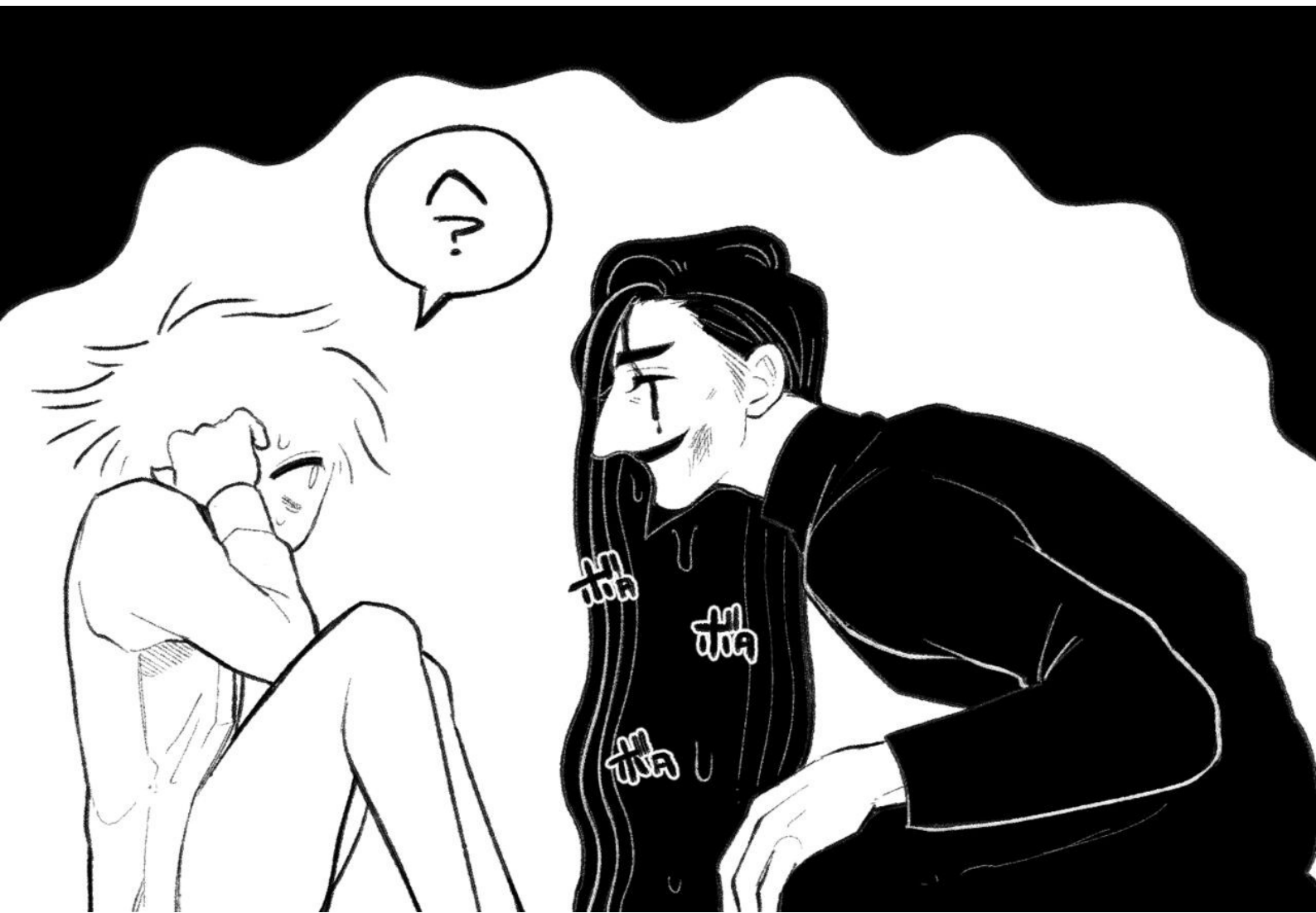






神様はお強いですよ。






神様は目と覚れ第一に



私なんかの心配を以下した



私が神様を守る事は
子として当然です。
すぐに駆けつけられなかった
私はとんでもない愚鈍。

神様は子に裏切られ
救いもなく失神する程
痛めつけられた。
しかし、私のような愚鈍に
慈愛を向け
その上ご自身をお責めに
なられる強さがこせします。



こんなにボロボロになって
僕を助け
心配してくれている
君のほうか...





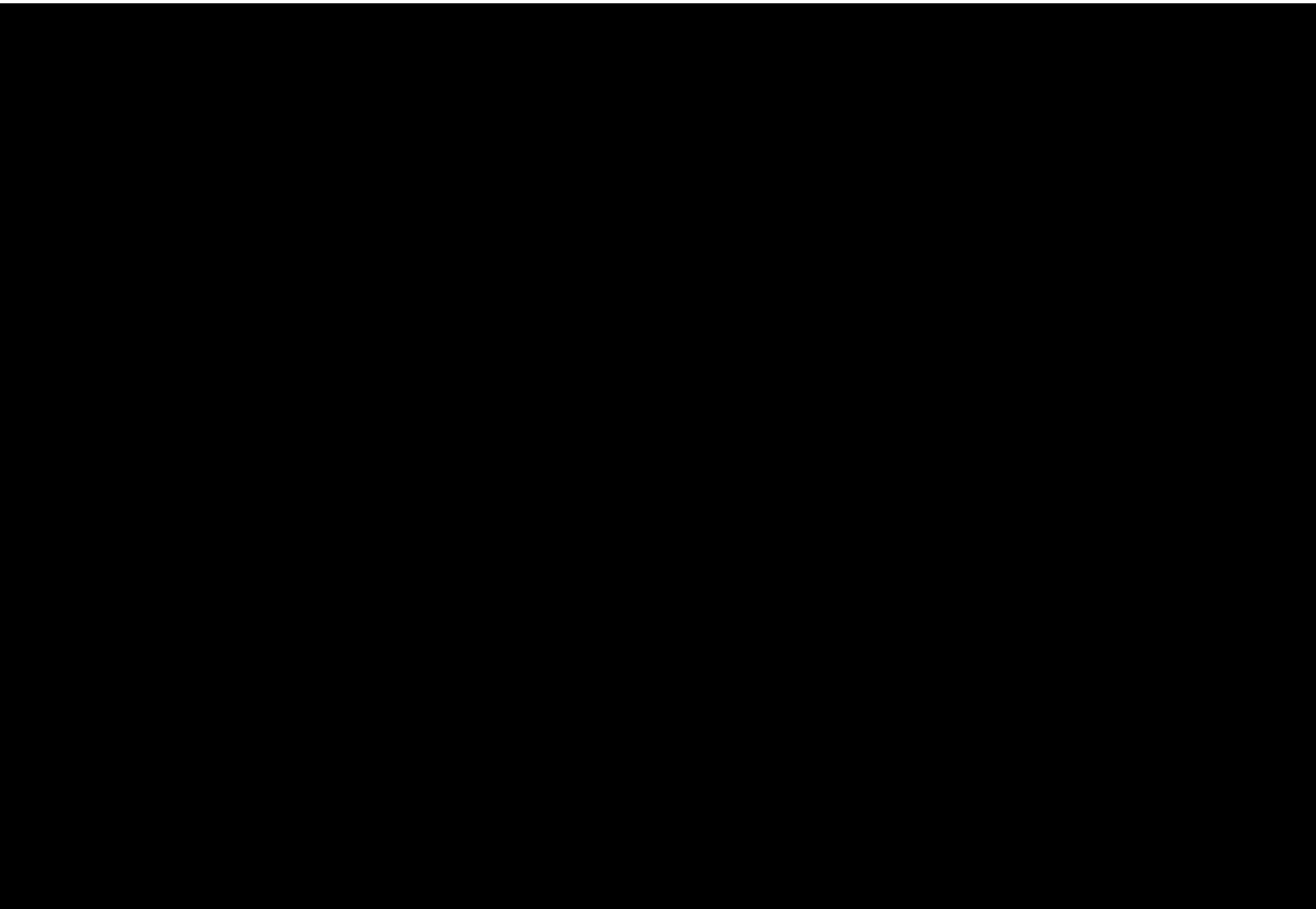
ふん


あ... ちょっと目眩が...

カクッ

えっ







申し訳ありません...
神様...

ほう

アッシュでございます。

そっか、僕は
神様なんだ。



じゃあ何故…
彼に負けたんだろっ。



あー... 治ってる...

かがみ

何故
彼は彼に勝てた?



彼らはどちらも、アケマに助けを求めた。
ほとんどヒトの魂のハズレだ。000





「ニはボクしか来ねな」
「場所はおどがけおなな」
「君たちは来たの？」





私はアシタ様から
お呼び出しがあり
こちらに参りましたが...

ああそつだ思い出した。

「ヨッ」でお忘れになりましたのですね

そのようだ。

ああ

ああ

おめでとうございます。

僕は彼、**オスカー**が
僕の楽園を破壊しようと
目をつけて……

はい

呼び出した。

はい

でも何故俺は
オスカーなんか
負けた？

アッシュ様が彼を信頼
し、力を与えたからでは？

そうだ。思い出した。

はい

全部全部思い出した。



思出たぞ。